

さようなら、校舎さん

「44ページ」

築44年、物資の乏しい時代の建築物をよくもたせたものです。私が赴任してきたのは20年目、創立90周年の年でしたが、かなり老朽化して見えました。それでも南面がガラス張りの校舎はすぐ校庭にも出られ、モダンな中に子どもの生活を中心に据えた明るい校舎でした。

子どもの声がするところ、毎日がアルバムの1ページとなるのですが、哀しい思いのページよりもちょっと顔がほころぶようなページの方を聞くことにしましょう。

今年も春を迎えようとしています。小動物が冬眠から覚め、あくびをしながら太陽の光をまぶしそうに見上げる頃には、理科室の裏の実験池では蛙がたくさん産卵し、おたまじゃくしになるまで眠っていますが、やがて卵からかえると同時に子ども達の目も輝いてきます。おたまじゃくしが欲しいのです。そこは先生も心得たもの、「一人〇匹ですよ。」

あき瓶の中では元気に泳ぎまわるおたまじゃくしをもらった子が嬉しそうに、大切に大切に教室へ戻っていくのですが、中には熱心に観察しすぎて自分がおたまじゃくしになって冷たい思いをする子もいました。…たまに。

都会に生きる生き物、きっと精いっぱい生きているのでしょう。いつだったか日銀との境界あたりで蛇が出たのですが、放っておけばよいのにかかったものですから、ガブリと一発。人間だからかわれば怒りますよね。その子は卒業するまで「ヘビ子」と呼ばれてしまいましたが、本人はどう聞いていたでしょう。

小学部 教頭 上村 稔

ところで蛙さん、これからはどこで産卵するのでしょうか。

全員が一堂に会しての給食は小学部にとって楽しく、大切な交わりのひととき。美味しくておかわりを重ねる子にとっては満ち足りた時間なのでしょうが、箸をおいてピーマンと睨めっこしている子にとっては、嫌いなピーマンを見ているだけで喉が細くなり、一日の中でいちばん辛い時間に違いありません。テーブルの下に落ちている食材で子どもの名前が分かるのでした。

光明先生は歴代の院長の中ではよく小学部を視察され、先生方の名前も覚えてくださいました。子ども達も喜んでお迎えしたのですが…。理科準備室をごらんになるなり、

「図工準備室よりはましね。」(整理整頓が)教職員にとっては緊張する訪問なのですが、とに角、隅々までよくご覧になっていました。

いずれにしても長持ちする校舎ではなかったのですが、21世紀を前にその使命を終えたのですが、仮校舎への準備をしていたある日、改築されると聞いた高3のAさんが訪ねてくれて、箱詰めをしている先生を見て、

「手伝わせてください。」

珍しい一言でもありませんが、嬉しい一言。空調もない夏の一日、額に汗しながら懐かしい小学部生活を回想しながら、互いに捨てがたい校舎への思いを残しながら夕刻まで働いてくれました。

素晴らしい人を神様と共に育ててくれた校舎でした。

校舎とお別れする会

「校舎の思い出」

(1998年7月14日)より

小学部講師 守屋 敏子

私が英和の小学部の先生になったのは、この校舎ができて数年の頃でしたから、まだ新しく、その当時としてはとても素敵な建物でした。建築に関心のある方々もたくさん見学にみえていました。

では、なぜ東洋英和はそんな立派な校舎を立てたのでしょうか？それは、そこで勉強する人にも立派な人になってほしかったからです。立派な人？お勉強のできる人のことでしょうか？それも大事ですね。理科室の前の廊下に赤いPタイルの部分があります。あれは、たて横1mの1㎡の広さです。その横の矢印のPタイルは北を指しています。この学校の北はこちらの方向ですよいつも示しています。

教室の前の廊下にも、赤いタイルの部分が所々にありますね。よく注意してみると、そのタイルは教室のドアの前にあります。教室のドアは内側から開けるようになっていきますから、廊下を歩いている人はドアに注意しましょうねという意味があったのです。本とノートのお勉強だけでなく、体で学んでほしいと先生方は考えたのです。

お教室では算数や国語など教科のお勉強をします。食堂では強い体を作るために、全校生徒が揃って毎日楽しく給食をいただきます。イエス様が12弟子と食事をなさったように、英和の子ども様と共に全校揃ってお食事をいただきます。

頭のお勉強、体のお勉強、そして最も大切なものは心のお勉強です。この講堂は、心のお勉強をする場所です。小学部の生徒は頭だけでなく心も体も強く育ててほしいものです。特に、お友達に対して思いやりのある、あたたかい心の持ち主になってほしいのです。そんな願いをこめてこの校舎は建てられました。でも人間が作ったものはい

つか古くなります。

校庭の泰山木を見て下さい。あの木が植えられた時は、6年生の身長位の高さだったと思います。寄り掛かったら倒れてしまいそうな木でした。それが今はどうでしょう。何人かの人が登っても、びくともしません。私はあの木を見ると、あの枝、あの葉はここで学んだ一人一人のような気がします。

神様の愛のエネルギーを根からいただき、生き生きと成長する英和の子。校舎が建て替えられても泰山木の木は残り、新しい校舎と共に、さらに大きく成長して行くでしょう。

私たちも、この校舎で学んだことを感謝し、新しい校舎でも、心と頭と体の勉強をしっかりする子供になりたいと思います。

「古い校舎、ありがとう」

大坂 幸愛

わたしがこの校舎を思う時、思い出の場所は、教室の木の床です。教室のそうじをする時、床のフローリングが、ミシミシ言ったりします。長い間ごくろうさまって言いながら、わたしは、そうじをします。本当に長い間です。なぜって、わたしのお母さんも、二人のお姉さんも、みんな同じ教室でお世話になっていたからです。いたずらも、笑い声も、悪い事も、そして、いい事も知っている床が、「さみしいよう、でも、もう年だからね、いつかまたね。」と言っているように思えます。でも、淋しいけれど、お別れです。本当に本当にありがとう、今まで守ってくれてありがとう、思い出は忘れないよ、大切にするよって、そっと言っ

てあげたいです。

古い校舎、本当にありがとう。

「校舎とお別れする歌」

作詞／作曲 1998年度全校生徒
補作 山内桜子

みんなの声が こだましている
古いけれど暖かい この校舎の中
うれしいときも 楽しいときにも
悲しいときも 苦しいときも
いつも一緒
こわされるって聞いたとき
さびしかったよ
だけど 心の中に残す大切なすがた

《三・四年パート》

体育館は大好きな場所
みんなで登った たいさんぼく
タイヤブランコ おもいきりこいで
走り回った 校庭
時には静かに 図書室で
本を読んで過ごした校舎
お別れはちょっぴり さみしいけど

《一・二年パート》

さあ みんな教室で遊ぼうよ
折り紙 おえかき おしゃべり
体育館ではボールなげで
ともだちみんなで遊ぼうよ
図書室で本を借りたいな
たいさんぼく登ってみたい

銀杏の木陰で なわとびしよう
この校舎 だいすき

《五・六年パート》

給食のお世話 小羊会も
みんなこの校舎の中
暑い夏の日 寒い冬の日も
友達と過ごしたよね
お別れするわたしたちの
この気持ちを歌に託そうよ
いつまでも心に残して
新しく歩いてゆけるよね
たくさんの思いで詰まっている
壊されてしまうなんて いやだな

いつまでも 忘れないよ
さよなら



講 堂

「だいすきなこうどう」

つちや しおり

わたしは、このえいわのこうしゃでいちばんすきなのは、こうどうです。

なんでこうどうがすきなのかというと、ようちえんでいえすさまのおたんじょうのげきをやった

ときに、まりあさまになったからです。そして、おいのりがだいすきになりました。このこうどうとおわかれするのがかなしいです。でも、あたらしいこうどうもたのしみです。

「六本木の校しゃさんへ」

みとなつみ

いま、六本木の校しゃはどうなっているのかな。まだいちょうの木は、のこっているのかな。とてもきれいな校しゃになっているのよね、きっと。そういえば、あのかきの木はどうしているでしょう。ピューピューかぜがふく中で、みんなのかえりをまっているのでしょうか。いちょうさんと、ワクワクするようなおはなしをしているのかもしれません。

わたしは、六本木の校しゃにいくのがたのしみです。いったら、なんというでしょう。

「わあ、校しゃさんきれいになったね。よかったね。」

と、いうでしょう。もしもわたしが六本木の校しゃで、みんながもどってきたら、

「おかえりなさい。まっていたよ。」

と、いうでしょう。わたしもそういわれど、うれしいからです。はやく、六本木の校しゃにもどりたいとおもっています。わたしは、ドキドキします。校しゃさんが、なにかをいってくれたら、「ありがとう。わたしもうれしいよ。」と、いってあげます。

わたしが三年生になったら、六本木の校しゃにかえれます。うれしいなあ。でもそのまえに、二年生になれるのかなあ。

校しゃさん、わたしたちがかえってくるのを、まっけてください。いちょうさんや、かきの木さんも、いっしょにね。

「こわされる校舎」

金田優子

私は小学部の校舎です。夏休みに入ったころ私はこわされます。小学部に通っている金田さんが、「この校舎ってもうすぐこわされちゃうんだよね。校庭でたくさん遊んでいい思い出を作らなくちゃ。」

と言いました。私は、私のことをこんなに思ってくれているんだ。うれしいなあ。こわされるのってどんなにつらくて苦しいことだろう。と思いました。休み時間には、楽しい声や、うれしい声などが聞こえてくるし、授業中もきれいな歌声やなわとびをする音が聞こえてきます。このままこわされなければいいのに。と思いました。

土曜参かん日の日がきました。金田さんたちの詩はとても長くてとても元気の出る詩でした。その時、私も元気がでましたが、校舎とお別れの歌を歌われた時、とても悲しくなりました。

みんなが私のことを、写真でとっていたり、ピアノをひいたりしている時、金田さんが、「この校舎もうすぐこわされちゃうんだよね。いやだなあ。このままがいいのに。」

と言いました。山口さんが、

「そうだね。悲しいなあ。でも、きっと校舎がいつまでも見守っていてくれるよ。」

と言いました。

夏休みに入る前になりました。みんなが私から出ていく時、

「私のためにしょんぼりしないでね。ずうっと見守っていてあげるよ。お勉強がんばってね。さようなら。」

と言いました。金田さんが、

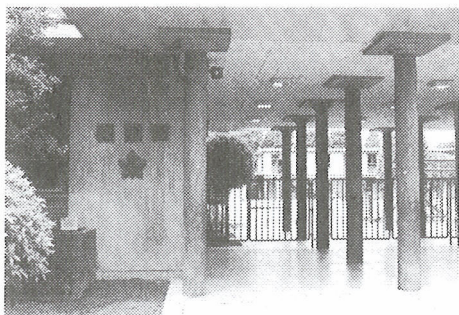
「校舎さん、さようなら。地しんの時もがんばって私たちのこと見守っていてくれてありがとう。大好きだよ、校舎さん。」

と言ってくれました。私の心の中には、みんなのにぎやかな声はまだ残っています。

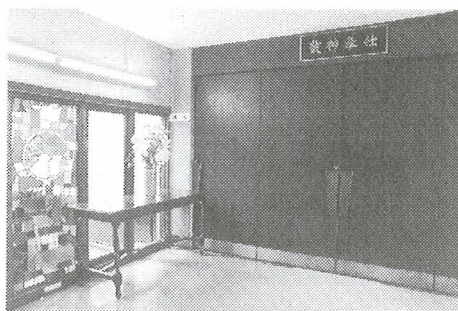
夏休みに入って何日もたちました。子ども達がぜんぜんいないと、校舎は静まりかえっています。私はとてもとても悲しいけれど、みんなのためだからがんばらなくちゃ。いつまでも泣いていたらなにも始まらないんだから。と思いました。

みんなのことを忘れないよ、さようなら。

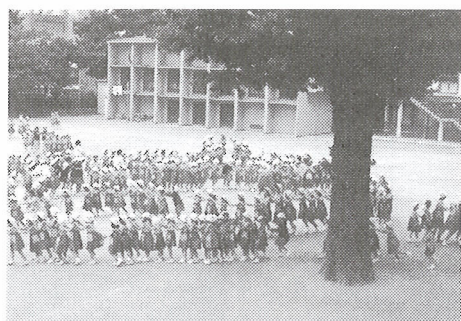
今、金田さんは心の中で私と同じことを思っています。私は、みんなにとって心の中に残す大切なすがたになりたいな。と思いました。みなさん本当にさようなら。私は、ぜったいみなさんのことを忘れないからね。元気でいてね。こわされる時はつらいけどがんばるよ、みんなもがんばってね。さようなら。



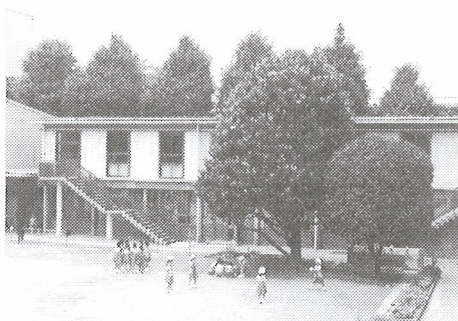
正面玄関



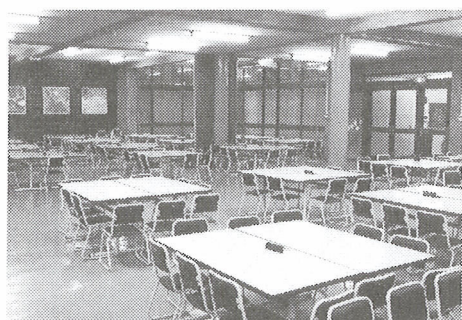
講堂入口



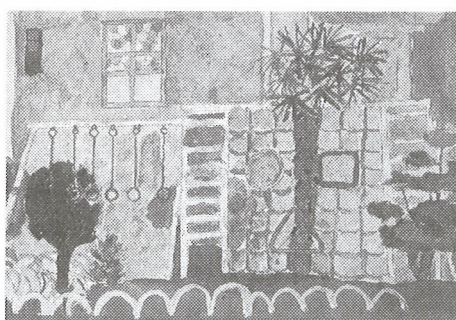
いちょうと子どもたち



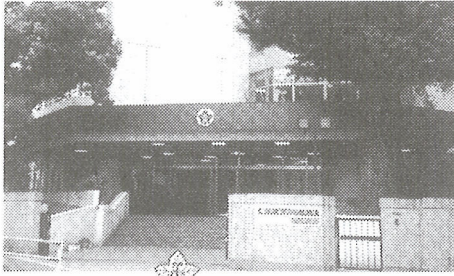
泰山木



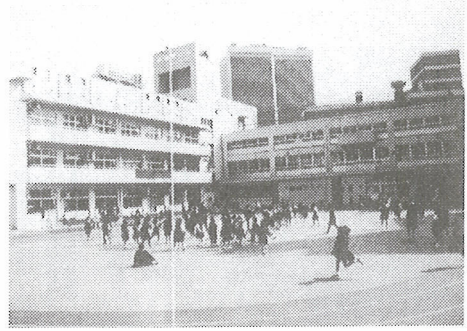
食堂



遊具



正 門



校舎と校庭

「 赤 坂 で の 生 活 」

岩 本 くるみ

去年の夏休み以来、私は赤坂に通っています。六本木の校舎を改築する約二年間の間、私はこの赤坂の校舎で生活することになったからです。

六本木校舎を改築すると分かった時、びっくりしました。建て直すほど古いということを生の中中で感じなかったからです。けれども、お母さんもこの校舎で生活をしていんだと考えると、改築する事がおどろくことではなく、自然なのかもしれません。お母さんも私も生活したこの校舎は、絵や作文等に残していきました。そして、私達は赤坂の仮校舎で生活することになったのです。

夏休みが終わって、いよいよ赤坂に行くという日、私はなぜか緊張しました。緊張しながらも、やっとたどり着いた仮校舎は、前の校舎と似ている点は一切なく、全く別の世界のようにうろろうしていました。そして一日ごとにこの校舎に慣れてきました。

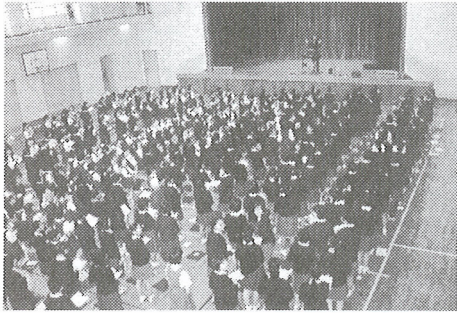
この校舎に通うようになって、一番変わったと思ったことは、給食がお弁当になったことです。お母さんはそれを知った時、ヒーヒー言っていました。そしてこれからお弁当のために、長い間早起きしなければいけなくなりました。私にとって

は、荷物が多くなってしまいました。

次に変わったと思うことは、礼拝を体育館でするということです。今までは、講堂でしていましたが、講堂がないため体育館でします。礼拝が終わってから足がしびれるのがつらいです。

他にも変わったことはいっぱいあります。校庭が土でないこと、小さくなったことや、三階まであることなどです。校舎が変わったのだから、他の物が変わるのは当たり前です。けれどもそれが私にとって、当たり前と感じられるには、まだ時間がかかりそうです。

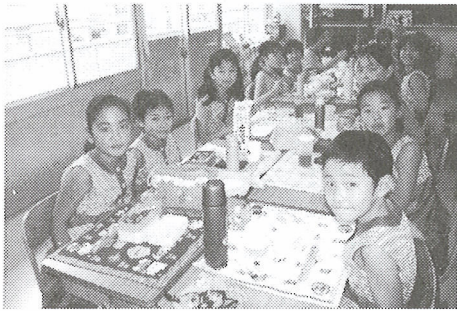
この校舎で過ごすということは、良いこともあればつらいことだってあります。良いことは、それはそれでいいけれども、つらいことだってあります。このつらいことをどうやって慣らすかは、がまんがどこまでできるかに関係します。でも、がまんをすることは、むずかしいことです。あとわずかで最上級生です。良いことを楽しみ、いやなことをがまんすることを覚えたいと思います。そして、赤坂での生活としていい思い出をいっぱい作りたいと思います。



体育館での全校合唱



体育館での全校礼拝



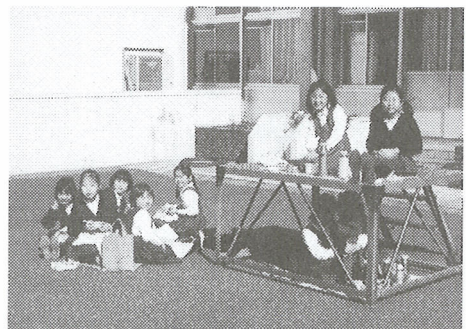
お教室でのお弁当風景



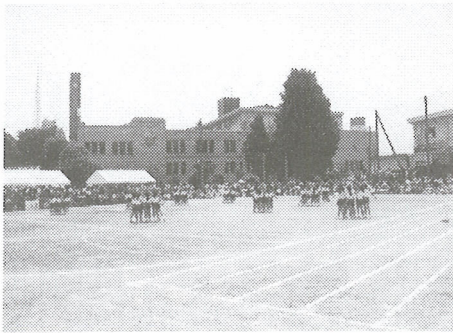
どこでもランチ（1年ホール）



どこでもランチ（校庭）



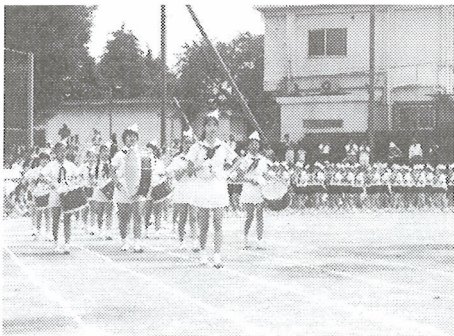
どこでもランチ（校庭）



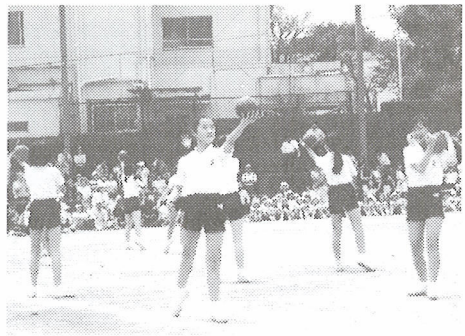
六本木中学グラウンドをお借りしての運動会



運動会（玉入れ）



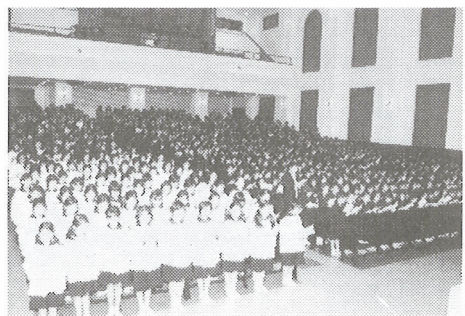
運動会（鼓笛パレード）



運動会（ボール体操）



美術展



マーガレット・クレイグ講堂での特別礼拝